

千葉大学産婦人科研修プログラム

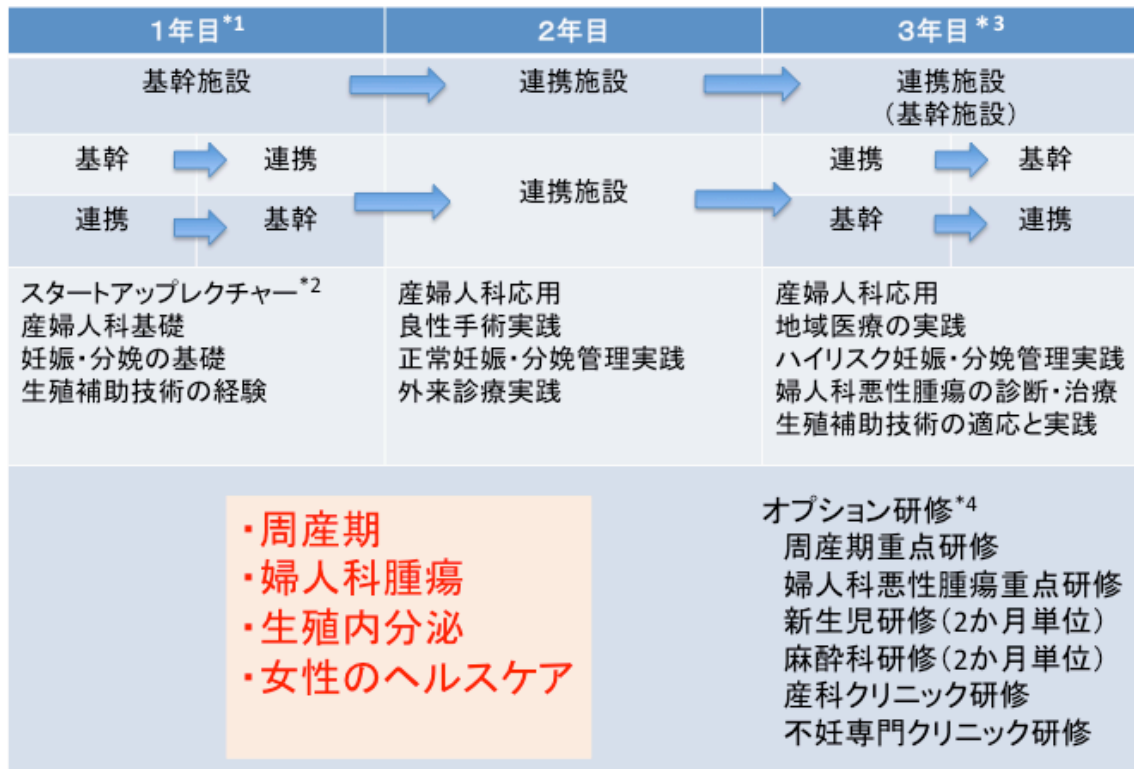
研修コース

千葉大プログラム研修コースでは千葉大学医学部附属病院産科婦人科を基幹施設とし、連携指導施設とともに医療圏を形成して専攻医の指導にあたる。これは専門医養成のみならず、地域の安定した医療体制をも実現するものである。さらに、指導医の一部も施設を移る循環型の医師キャリア形成システムとすることで、地域医療圏全体での医療レベルの向上と均一化を図ることができ、これがまた、専攻医に対する高度かつ安定した研修システムを提供することにつながる。

研修は、原則として、千葉大学医学部附属病院およびその連携病院によって構成される、専攻医指導施設群において行う。研修の順序、期間等については、個々の産科婦人科専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、千葉大学産婦人科研修プログラム管理委員会内に設置した研修管理委員会で協議し、プログラム管理委員会で決定する。

1) 基本コース；

- 1) 千葉大学附属病院で1年間と連携施設で2年間の合計3年間で専門医取得を目指すプログラムである。専攻医は3年間で修了要件を満たし、ほとんどは専門医たる技能を習得したと認定されると見込まれる。修了年の翌年度（通常後期研修の4年目）に専門医試験を受験する。
- 2) 修了要件を満たしても技能の習得が足りない場合、病気や出産・育児、留学などのため3年間で研修を修了できなかった場合は1年単位で研修期間を延長する。
- 3) 原則1年目は、基幹施設で研修を開始し、産婦人科の基礎研修を行う。研修医の受け入れ数により6ヶ月ごとの研修となる場合は、連携施設からの研修開始する場合もある。基幹施設では、スタートアップレクチャーを行い、研修開始時に診療の基礎を学ぶ。連携施設で研修開始する場合は、それぞれの施設で基礎研修を行う。基幹施設でのレクチャーは6ヶ月ごとに繰り返し、連携施設で研修開始した専攻医も受講してもらう。基幹病院での研修は、産婦人科の基本を修練するとともに、毎週のカンファレンス・症例発表を通して自己学習能力を高め、多くの疾患を経験することに努める。大学では、一般市中病院で経験しにくい希少疾患、高度医療を要する疾患を多数経験できる。2年目に連携病院で外来診療を実践し、良性疾患手術や帝王切開の経験数を増やす応用研修を行う。3年目は個々の専攻医の症例経験数や、希望に基づき、周産期・婦人科腫瘍・生殖医療など、それぞれ連携施設の特徴にあわせ研修先を決定する。1年目の基幹研修が6ヶ月の場合は、再度基幹施設で応用研修を行う。また、希望者には、経験症例数がクリアできることを条件に新生児研修・麻酔科研修・不妊クリニック見学などのオプション研修を行う。



*1 専攻医数によって、基幹施設-連携施設 6 ヶ月交代の研修で開始

*2 1年目は基幹施設でスタートアップレクチャーを行う

*3 6 ヶ月で研修病院の変更あり。基幹施設での研修も可

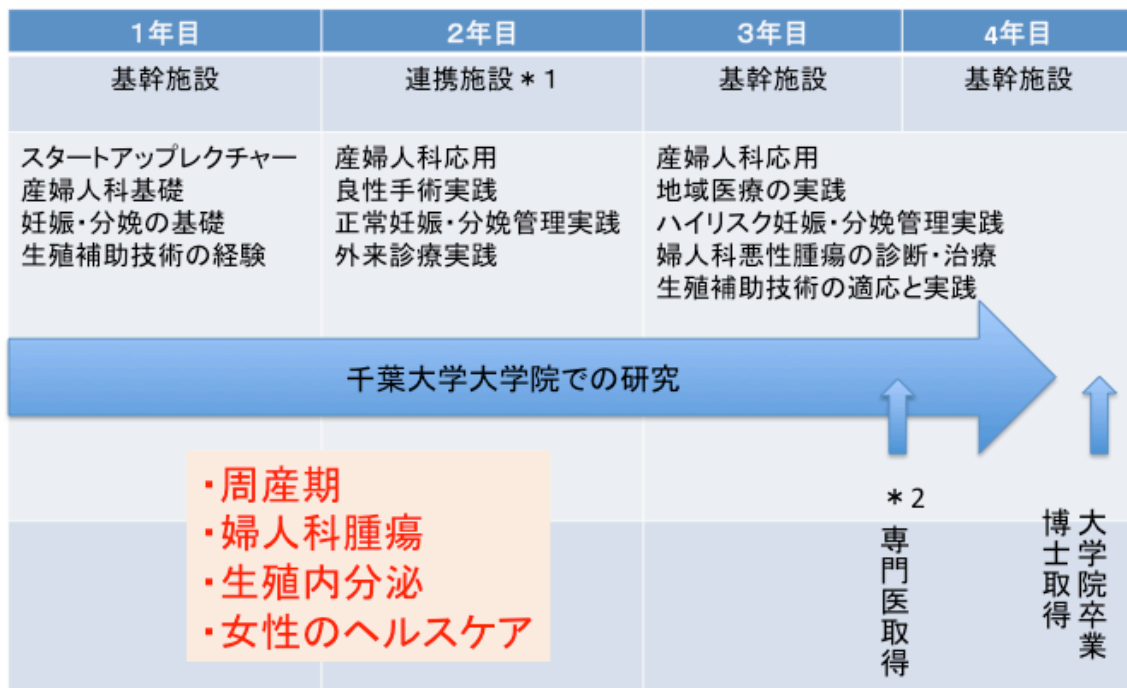
*4 3年目は経験症例数により、希望によりオプション研修可

以下の③-⑥の研修は基幹施設研修中に短期研修で可

- ①周産期重点研修 (6 ヶ月単位)
- ②婦人科悪性腫瘍重点研修 (6 ヶ月単位)
- ③新生児研修
- ④麻酔研修
- ⑤産科クリニック研修
- ⑥不妊クリニック研修

2) 大学院研修コース

千葉大学附属病院で研修をしながら、大学院にも在籍し、専門医取得と同時に医学博士号を取得するためのプログラム。主に千葉大学学士入学者などを対象にしたプログラム。6ヶ月から1年の地域研修を行うほか、主に基幹病院での研修にあたる。3年の研修を基本とするが、大学院在学中の4年間での専門医取得を目指す。



*1 研修期間中、最低6ヶ月は地域研修を行う。

*2 3年間で修了要件を満たさない場合は、1年ごとに延長も考慮する

3) 育児・復職支援研修コース

女性医師で妊娠、出産により一時的に職場をはなれた場合や、病気療後の復帰を支援、また子育てのために研修に十分時間がとれない医師（男性医師も含む）のプログラム。育児支援では、院内保育の可能な病院を中心に、日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の専攻医の希望に合わせて作成する。研修期間は、3年を基本とするが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能である。保育施設利用可能な連携病院で、地域研修を行う。



- ・ 院内保育所による子育て支援
- ・ 日勤帯を中心に研修（手術・外来・入院症例）計画を立てる
- ・ 6ヶ月の休職であれば、3年で専門医取得可能

4) 産婦人科初期研修プログラム連動コース

初期研修時に産婦人科コースを選択した専攻医のためのプラン
修了要件を2年間で修了をめざし、subspeciality 研修（ただし、subspeciality 専門研修の症例数にはカウントされない）も可能。他専門研修プログラムへの国内留学等も希望があれば選択可能とする。